

平成30年度第1回放送大学学園契約監視委員会議事概要

開催日及び場所	平成30年9月21日(金) 放送大学東京文京学習センター 会議室1	
委員長	山田 幸太郎 (山田会計事務所・公認会計士)	
委員	三島 良直 (放送大学学園・監事)	
委員	石井 尚子 (放送大学学園・監事)	
審議対象期間	平成29年4月1日 ~ 平成30年3月31日	
審議事項	1. 平成29年度(平成29年4月~平成30年3月)の契約状況について 2. 平成29年度契約監視委員会における意見等のフォローアップ 3. 平成29年度一者応札案件について 4. 平成29年度一者応札案件に係る個別ヒアリング	
委員からの意見・質問、それに対する回答等	下記のとおり	
委員会による意見の具申又は勧告の内容	なし	
	意見・質問	回答等
1. 平成29年度(平成29年4月~平成30年3月)の契約状況について		
(1) 契約形態別契約状況(資料1関連)及び一般競争入札等応札、応募者数(資料2関連)については、前回の意見を踏まえて新たに添付されたグラフによって年度ごとの傾向や一者応札の改善状況等がわかりやすくなった。今後は、対象年度を広げた上で比較を行なうよう改善してはどうか。 (2) また、過年度の複数年契約の件数・金額を含んだ表については、次回からは資料に添付しなくても良いのではないか。		(1)、(2)ともに、ご意見の趣旨を踏まえ、次回の委員会資料作成時に反映させることとしたい。
2. 平成29年度契約監視委員会における意見等のフォローアップ		
(1) 整理番号2「一者応札案件の改善方策等について」においては、アンケート様式の改善が図られ、今後はそれらの情報をどう共有し活用していくのかという点が重要である中、アンケートに基づく様々な意見の関係部署間での共有、共有した意見の分析及び次期契約の調達手続への反映可能性の検討、検討状況や反映状況の委員会への報告等を体系的に取り組んでいくよう新たな提案がされてるが、検討状況や反映状況だけでなく、実際に業者から提出されたアンケートについても提出するようにしてほしい。		(1) ご意見を踏まえ、辞退者アンケート及び一者応札アンケートについては、意見の検討状況や反映状況と合わせ、委員会に報告することとしたい。
(2) 整理番号3「平成29年度一者応札に係る個別ヒアリング『情報基盤システムの調達』」について、次期契約書の修正に当たり、リース取引に関する会計基準に基づくノンキャンセルの条項を書き加えているようであるが、わざわざ学園にとって不利な条件を積極的に契約書に付け加える必要はないのではないか。契約期間満了後の再リース契約締結の際の適正な再リース料の設定を目標とするのであれば、それに関する条項だけを追加すれば問題は解決されるのではないか。		(2) ご意見の趣旨を踏まえ、次期契約書には再リース料の設定に関する条項を加えるとともに、ノンキャンセル条項の削除の可能性等について検討することとしたい。
3. 平成29年度一者応札案件について		
ヒアリング対象とした3件の業務内容が類似していたり、金額的に比較的少額の契約も対象となっていることを踏まえると、今回の委員会でこの3件を選定し個別に時間を割いて別々に議論することが時間の使い方として適切なのか疑問がある。個別ヒアリングの対象案件については、「一者応札が続いている案件であること」、「金額がある程度の大きさ以上であること」、「これまでの個別ヒアリングの議論の観点とは異なるものであること」、「分野を特定のジャンルや内容に偏らせないこと」などをもとに客観的で明確な選定基準を早急に作成した上で、当該基準に基づいて選定するよう改善すること。		ご意見を踏まえ、次回の委員会において反映できるよう改善したい。
4. 平成29年度一者応札案件に係る個別ヒアリング		
「学生向けシステムに係る運用支援業務」 本案件については、同一の業者が長年請負っているため、他の業者にしてみれば競争に参入しにくいかもしれないが、過去の案件も含め多くの業者が興味を示している案件なので、請け負える業者はそれなりに存在するのではと思われる。応札可能性のある業者へのアプローチや、どのような業者なら応札できるかなどの見極めについては、今後もう少し深掘りしてみとよいのではないか。		ご意見を踏まえ、本件の一者応札改善のために取り組んでいきたい。
「業務システムに係る管理・運用支援業務」 新たに参入しようとする業者が業務に必要な要員を確保するというにはそれなりの負担とリスクが伴うので、落札後の業務準備期間が短くなればなるほどその負担とリスクも大きくなり応札に及び腰になってしまうのではないか。この業務内容については専門性がそこまで高いとも思えないので、学園として、業務を請負える業者の発掘、応札可能性のある業者への積極的な情報提供といった取組を行ってほしい。		ご意見を踏まえ、次期契約の調達スケジュールには十分留意した上で、一者応札改善のための取組を行ってほしい。
「看護師国家試験学習支援ツールに係る労働者派遣業務」 業界団体に対する情報提供など応札者を増やす工夫を行なっているようであるが、それでも現在の業者以外に応札者がいないのであれば、競争参加の要件が厳しいのか。内容的に特殊な業務ではなく、作業ができる派遣職員もそれなりにいるのではないかとと思われる。 そういった見極めの精度を上げるためには、4月から開始した新たな様式での辞退者アンケート等による一者応札改善に向けた取組としての情報の集積と活用が今後の重要なポイントになってくる。我々が考えている一者応札の要因は、あくまでも推測の範囲にとどまるものなので、実際に辞退業者等から得た生の情報の把握と共有、分析は、事務局側でしっかりと取り組んでもらいたい。地道にはあるが1件1件一者応札を改善していくために個別ヒアリングで取り上げる対象案件の選定基準を決めつつ、また、俯瞰的に見た上で学園の一者応札案件を改善するための新たな方策を検討していくというように、計画的に進めていく必要がある。		ご意見を踏まえ、学園の一者応札案件の改善のために取り組んでいきたい。